

第178号
2022年
10月16日

九時 晨朝（法輪寺門）

十時 日中法要

師

十三時半 逮夜法要

つまずいたりするほうが

自然なものだなあ
人間なものだ

根　さ　え　し　つ　か　り　し　て　い　つ　れ　ば
枝　葉　は　ど　ん　な　に　ゆ　れ　た　い　つ　れ　ば
い　ま　か　せ　て　お　け　ば　い　い

相田みつ

（質問）「自然法爾（じねんほうに）」について教えて下さい。亡くなった夫が好きな言

『（質問）蓮如上人の御文章
白骨の章』の内容について
現代とのずれがありません

「自然法爾」の本来の意味は、
「自らのはからいを捨て、あ
るがままに身を任せる」とい
ったことです。これを親
鸞聖人は、「本願他力」とい
うはたらきに当てはめてお使
いになられました。
すなわち、信心は阿弥陀さ
まのはからいによるもので
あつて、自力の心を捨て、す
べてをまかせることが自然
法爾であり、念仏者の在り方
だと示されたのです。

りて、ご質問がどの部分を指摘されて
 いるのか、が不明ですが、例えば、
 「たれか百年の形態をたもつべきや」の箇所などは、確かに人生100年時代
 と言われる現代を、蓮如上人の時代と
 比較すれば、生活年齢は延びましたが、
 「生まれながら死ぬ」という人間の
 本質は何ら変わっていません。文書の
 表面にとらわれることなく、我が事と
 して拝読し

（質問）おとりこしの時に朱色の蠟燭を使う理由を教えてください

う」といふ書物の中に書かれてゐることを、少し難しい言葉ですが掲載します。

『自然といふは、自はおのずからといふ、行者（念仏者）のはからいにあらず、然（然）といふは、しからしむといふことばなり。しからしむといふは行者のはからいにあらず。如来のちかいにてあるがゆえに法爾といふ』

私達念仏者にとつては、とても大切な言葉であることが

朱蠟（金箔も同じ）は、仏前結婚式・報恩講・50回忌法要などおめでたいときや大切な法要の時に使用します。おとりこし（報恩講）は、親鸞聖人のご苦勞を偲びつつ、お念仏のみ教えを悦び一人でも多くの方に伝えていくという、浄土真宗の門徒にとっては大切な年中行事であることから朱蠟を使います。

題材法話

浄土真宗のみ教え ①7

「浄土への人生」

*拝読「浄土真宗のみ教え」の26頁をお読み下さい。

浄土真宗のお念仏のみ教えは「煩惱具足の凡夫である私が、阿彌陀様の本願により浄土に往生し、仏と成ることです。」

では、「いつ仏と成れるのでしょうか。そしてそれはいつ決まるのでしょうか？」。これが今回のテーマです。

○いつ仏に成れるか？

『臨終一念の夕べ 大般涅槃を超証す』

本項で引用されている「聖典のことば」は、教行信証の「驚聖人が述べられる言葉です。」少し難しい言葉



です。「大般涅槃」とは完全なさとおり、「超証す」とは飛び越えていくことです。続けて意識しますと「私達は、この世の命を終えた時、完全な悟りを得ることのできる浄土へ、飛び越えていきます。」という事になります。

○蓮如上人と一休禪師の掛け合い

特にここで味わいたのが「超証す」ということです。仏説阿彌陀經には「これより西方に、十万億の仏土を過ぎて世界あり、名づけて極楽」とあり、名づけて極楽土は果てしなく遠いと



した。「極楽は十万億土と説くならば、足腰立たぬ婆は行けまじ」といふ婆が行けないような遠いお浄土など意味がないではないか、という事です。蓮如上人は返歌として、「極楽は十万億土と説くならんど近道すれば南無のひと声」と返されました。

絶対に往くことのできないお浄土だけども、阿彌陀様の方から「まかせよ」と完成させて下さったご本願であれば、一つ飛びだすという事です。

○いつ決まるのか

それは、そのお浄土で生きは、いつ決まるのか。それは、この阿彌陀様の願いが、この私に



うか？それは「私の口から、ふとお念仏がこぼれ出た時」と示されま

○浄土への人生

死は必然ですが、未経験で何もわからず、怖ろくて不安に襲われま